

(若狭鯖街道熊川宿資料館(宿場館) 展示説明：2F 生活用品の展示)

2 階の展示：宿場町の日常生活

このフロアの展示品は、かつては運送代理店や運搬人の事務所、さまざまな商店、宿泊施設があり、宿場町として栄えた熊川宿の日常生活や商業活動にまつわるものです。

旅人や運搬人が使用した衣類や道具

江戸時代(1603年～1867年)に町を通過した旅人たちは、藁で作られた帽子や靴、カッパをよく身に着けていました。そのような衣料品の例は、交易や輸送に使用される道具の隣に見られます。棒と編み籠は肩に乗せて重い荷物を運ぶために使用され、さらに重い荷物は牛によって取り扱われました。大きな木製の鞍は、牛が物資を運べるようにするものです。螺鈿細工で装飾されており、年貢の運搬などの特別な機会に使用された可能性があります。そのそばには、牛のために編まれた、ひづめを保護し滑りやすい足場での牽引力を提供するための藁のくつが吊るされています。

その他の商業用品および家庭用品

その他の商売に関連する品物には、いくつかの店の木製の看板や、提供されている薬の一部を並べた薬局の看板、さまざまな商品を運ぶために使用される箱や壺などがあります。冬の雪の間は、木製のそりが運搬に使われました。熊川宿ならではの日用品の一例として「芋洗^{いもあら}い」があり、これは水車をベースにした樽のような形の道具で、町全体を流れている石で舗装された前川という水路を流れる水の力を利用してじゃがいもの皮を剥くためものです。

葛の製造過程と道具

2階の一部は、熊川の特産品である葛のコーナーです。展示品には、お盆やたらい、粉碎および切断する道具、葛の根、100年前の最終製品のサンプルなどが含まれます。パネルや写真で製造工程を解説し、熊川宿の葛の品質の高さについて言及した歴史資料を展示しています。

熊川宿の現在と過去

大型のジオラマは、現在の熊川宿とその周辺の風景を俯瞰で再現しています。江戸時代(1603年～1867年)後期のものと1878年のものの2枚の歴史的地図には、かつて宿場町で営業していた企業や居住していた家族の名前が記載されており、時間の経過とともにレイアウトがどのように変化したかについての洞察が得られます。日常生活の瞬間が数多くの白黒写真で保存されており、そのうちの最も古いものは大正時代(1912年～1926年)のものであります。

さまざまな資料、道具、工芸品、衣服、その他の展示品は、過去数世紀にわたる熊川宿の生活を鮮やかに描き出しています。消防隊の旗、祭りで使用される儀式用の杖、足軽の歩兵が着用する

伝統的な笠、装飾的な屋根瓦、さらには洋風の蓄音機など、それぞれの品が過去の時代を物語っており、現在は資料館に大切に保管されています。